

さくら物語 夢の桜街道®

Members magazine 2017 vol.19



題字：原田桂風。<21年度山形県総合書道展「山形県教育委員会賞」受賞者>

表紙写真：齋藤俊幸 「花いかだの舞」撮影場所/山形市禰城公園お堀 <第3回やまがた「水辺の四季」写真コンテスト奨励賞>

Contents

対談 山形の今、そしてこれから	2	地域の特色を活かす～地域部会～	11
桜が紡ぐ物語～最上川・夢の桜街道～	8	置賜地域部会・村山地域部会・最上地域部会・庄内地域部会	
美しい山形は私たちの手で	10	第3回水辺の四季写真コンテスト	12
震災から丸6年を迎えるにあたって	10	美しい山形・最上川フォーラム会員募集	12
東日本大震災復興支援プロジェクト～東北・夢の桜街道～		フォーラム応援企業・団体	13

山形の今、そしてこれから

いつの時代も、私たちの暮らしを見つめてきた最上川。そして豊かな山々や海。大切な自然や先人たちの知恵、受け継がれてきたものを次の世代に繋いでいくにはどうしたらいいのでしょうか。私たちの暮らしを今一度足元から見つめ、一人一人の力を活かすことではないかとフォーラムは考えます。

設立から16年目を迎えた美しい山形・最上川フォーラム。様々な立場の方々が集まり、共に考え活動していくために、地域や業種を越え、幅広く活動するお二人をお迎えし、「山形の今、そしてこれから」のことについて、お話をいただきました。

16年目の今、見えてきたこと、考えること

横尾(敬称略) フォーラムの活動について、まずはご紹介を。

柴田 フォーラムは、最上川をシンボルとして位置付け、山形県内全域を対象として活動している団体。環境 (Environment)、経済 (Economy)、教育 (Education) の3Eをキーワードに、現状を把握し、川に親しみを持ってもらうため、環境、文化、経済の多方面から活動している。16年目に入ったが、山、森、川の環境や海の水質も良くするには長い時間がかかる。改善するためには、まず人が変わらなければいけない。特に環境教育には力を入れていて、子どもたちが現状を知ることが、親や地域の大人を変えることにつながり、次世代に継承していける。



継続してゴミを調査してみると(毎年8~10月に行うクリーンアップキャンペーンの集計結果は全国、国際調査にデータを提供)、レジ袋が非常に多く捨てられていた。フォーラムでは、以前会員全員にエコバッグを配り、県内スーパー等へのレジ袋有料化を働きかけた。また、6年程前に朝日町の上郷ダムで調査を行ったところ、流木が約3割もあった。その後、3年間研究会を開催し、流木対策について話し合ってきた。山形県は、ほとんどの市町村に森があるが、人口減少が進み、木は熟成しても活用されず、流木となるものも多い。山の木を活かし、流通させるためには丸ごと使用できるようにすることが重要。そのための一例として、公共建築物には木を使用すべきだと、研究会で進言した。今、山形県では「森林ノミクス」で森を元気にする取り組みが、具体的に予算化され、動いている。川上から川下まで、生産供給だけでなく、需要も含めて考えることが、森と麓の人の元気を取り戻すことにつながると、「木を活かす仕組みづくり」にもフォーラムとして取り組んでいる。

横尾 私たちの身近な周りには、産業があり、そしてそれは未来につながっていると感じる。今日は木に関わるお二人がいるので、そのあたりの話をぜひ伺いたい。

話す人
齊藤貴裕
株式会社リンシヨウ専務取締役

×
須藤 修
デザイナー/LCS 共同主宰

×
柴田 洋雄
美しい山形・最上川フォーラム会長

聞く人
横尾 友栄
美しい山形・最上川フォーラム
最上川文化・地域経済活性化部会副会長



「デザイン」の視点から見る、今

須藤 私はデザイナーとして、木工加工者と消費者をつなぎ、山や森、県産材と人の新しい関わり方を考え、実践する活動をしている。この対談の会場となった「Icho café(イチョウカフェ)」も、活動の一例。イチョウカフェは「熊野大社(南陽市)」に隣接していて、もとは地元産のリンゴやジュースを扱う和室造りの売店だったが、店主のおばあちゃんが高齢となり、休業が続いていた。大社に訪れる年間30万人もの観光客も、観光バスで乗り入れ、参拝したら次へ移動してしまう。大社周辺は、少し足を伸ばせば歴史ある商店や若い跡継ぎも多い魅力ある地域。ここはカフェでもあり、スタッフとの会話から街の良さを知ってもらう、地元産の美味しい食材(ハチミツ等)を味わってもらうなど、観光客に「街においてみようかな」と感じてもらうための拠点でもある。「土地の話題を提供できるスタッフが、土地の食や物を発信する」という一見シンプルだが、実は難しい仕組みにチャレンジした。地元の若者が出資、地元企業からも御協賛いただいて、街の人がオーナーを担う。「クラウドファンディング」のアナログ版のような経緯でできた場所。中央にある大きなテーブルには、カフェの前にそびえる大イチョウ(山形県指定天然記念物。推定樹齢800年以上)にちなんで県内産のイチョウ、また、窓際のテーブルには、県内産ヒノキを使用している。ヒノキは神様の木とされ、上に物を置く使い方をされる事は少ないが、大社にちなみ、敢えて取り入れている。乾燥等に工夫をして、使用感にもこだわった。

横尾 オープンして2年程だそうだが、反応はどうか？

須藤 嬉しいことに、年代問わず、多くの観光客で賑わっている。そこへ地元のおばあちゃんやおじいちゃんがやって来て、外から来た方と「地元でこんな良いのあるから寄って行ったら〜」と会話を交わす。街の良さは、その土地の人の良さ。私自身、観光は地元の人と触れ合うこともとても大事だと思っていて、オシャレすぎるカフェは利用層を狭めてしまうが、イチョウカフェでは、とてもオープンで親しみやすい雰囲気が育まれている。

横尾 須藤さん自身の本業とは？

須藤 大学卒業後も山形へ残り、デザイン事務所を3年程経験して独立した。今は企業や店舗、自治体、作家や個人の方等、幅広いお客様と仕事をさせていただいている。「デザイン」が意味するところは様々で、大学の授業で家具修復を学んだ時は、実験的な斬新さを求められたり、手仕事としての技術を身につけたりすることが多かった。そのうち、「デザインが人からどう受け止められるのか」という社会の仕組みが知りたくなり、在学中に街に飛び出してフィールドワークを行った。すると、「なりたい姿はあるけれど、そうなれる気がしない。方法がわからない。」といった街や企業の不安や問題が見えてきて、この経験から、私にとって「課題を可視化し、それを解決していくための手段」が「デザイン」だと思った。今でも、家具修復やグラフィックデザイン、プロダクトデザイン、ロゴやホームページ等分野や手段を横断して、ベストな方法で依頼主の課題解決や目的達成につなげることを大事にしている。最近行ったのは、今年3月に山形市内にオープンした「ボルダリングジム」のリノベーションを中心にしたプロデュース。元は会社倉庫だった建物を、ジム仕様に改装した。空間設計、家具選定アドバイス、ロゴマークやホームページ、名刺制作等を一手に引き受け、依頼主が望む、施設の「らしさ」がジムのお客様へ伝わるよう、オープン後のフォローも続けている。他にも「エスパル山形(JR山形駅に隣接するショッピングセンター)」が、「山形らしさ」を発信するにあたっての広報をディレクション。ターゲット像を設定し、ロゴやコンセプト、山形の四季をモチーフにしたグラフィックデザイン、広告素材の制作、工芸品を展示するミニギャラリーの運営、館内装飾の一部を請け負った。私のルーツは「家具修復士」で、目指したきっかけは前述のフィールドワークにある。



須藤 修

デザイナー
東北芸術工科大学 非常勤講師
LCS 共同主宰
山の形共同代表

2009年より家具の修復をはじめ、依頼を受けて持ち主の想いを修復に生かすこと、また自身が制作する修復家具の販売を行っている。それを軸に、森林と人との新しい関わり方を考える「YAMAMORI PROJECT」や、山形の新しい道具をつくる「山の形」の共同代表など。山形を軸としたデザイン活動を行う。

【MAIL】 o.suto@me.com



施設ディレクションを行った BOULDERING358



自身の展示会 STOCKS repair&used 開催時の様子



icho cafe

所在地：山形県南陽市宮内 3707-1

熊野大社内

TEL:080-5734-0909

定休日：火曜日(祝日の場合、翌日)

営業時間：11:00~18:00

南陽市宮内のまちづくりのために、まちの人たち自身の手によって生まれたカフェ。

新鮮な地元のおいしい食材にこだわったメニューを展開。地元で採れた季節の野菜や果物を使ったスムージーや季節のケーキなど、メニューを見ているだけでも楽しい。

店舗詳細ホームページ→

<http://ichocafe.com/>



山形には蔵や農機具小屋を持つ家が多いが、耐久性等の問題から取り壊されつつあり、先代からの暮らしの品や家具、工芸品が家主の思いに叶わず、保存に困って処分されていることを知った。そこで「足が1本壊れている椅子の部品を作り直す」「大きすぎる棚を現代の暮らしに合ったサイズに作り直す」等、手を加えて使う、もしくは販売して次の持ち手に継ぐ仕組みを考えることができれば、この問題は解決すると考えた。この流れが、私が山形にこだわって仕事をする大切な理由になっている。預かる時には必ずお会いして、家具に込められた思いを聞き、それを大切にしながら私も作業をするし、県内の職人さんとも協働している。伝統工芸に現代の技術と感性を加えた商品群のプロデュースと運営も、デザイナーの友人と取り組んでいて、つくり生み出すものではなく、直し生み出す視点からのものづくりを国内外に発信・流通させている。

横尾 すごく幅広い！

柴田 形のデザインだけでなく、既存の物をよく理解し、方法を提案する、とても珍しい方面のデザイナーだね。

須藤 実はコミュニケーションが仕事の9割くらい。

柴田 仕事として非常に面白いよね。そして仲間やいろいろな人がかかわることで発想が広がる。

須藤 伝統工芸の作り手さんにアドバイスをもらって私自身が成長できたり、お客様が新しい視点を発見させてくれたり。どの案件も私の立ち位置はつくり手や経営の伴走者。ベストな手段と一緒に考えて、デザインで実現することを常に意識している。

柴田 難しいのは、そのようなものに対して対価を支払う意識がまだないことかな。

須藤 はい。企業でも行政でも「デザイン費」という概念を取り入れて仕事を発注をするのはまだまだ難しいことでもあると思っているので、納品した仕事や実例、数字から価値を感じてもらい、少しずつデザインの提案をしている。まずは対価を踏まえず飛び込まないといけない時もあるが、共通認識や信頼関係が出来れば、長くお互いに成長の見込める仕事になる。

柴田 人を知らないといけないし、地域を知ることが全てに生きてくる。時代の最先端に行く仕事。今後そういう時代になってくると思う。

須藤 一級建築士の友人と「LCS(ルクス:Link、Cycle、Survive)」というデザインユニットを組み、「YAMAMORI PROJECT(ヤマモリプロジェクト、山形県「みどり環境公募事業」採択、2013年「グッドデザイン賞」受賞) ①林業、製材業、木工業に関わる人たちを訪ね、紹介しながら県内での生産サイクルを作る、②一般の人が日常で使える製品を作る、③身近な山や森を舞台に、土地の木やものづくりに親しめる『体験ツアー』を開催する」という活動に、2012年から取り組んでいる。きっかけは「県産栗材の天板でテーブルを作りたい」というお客様のリクエストをもらい木材市場に行ってみたら、山形には広葉樹が定期的に通販がない、という現状を知ったこと。需要があるのに買おうとした時に買えないことが衝撃だった。気になって現場を訪ね歩くと、林業家、製材業、デザイナー、加工業、売り手、買い手、それぞれに「県産材がもっと流通すると良い」という思いがあった。私の役割はその循環をデザインすること。そこからヤマモリプロジェクトをスタートさせた。デザイナーと言うと、机に向かって手と頭を使う職業と思われがちだが、私にとってのデザインの全景がこのプロジェクトにあるような、街やフィールド、そこにいるヒトとのコミュニケーションにある。「林業に興味があるか」と聞かれて手をあげる方は少ないかもしれない。けれど、美味しい物や楽しい木工ワークショップを入口にツアーに参加してもらい、1人でも2人でも「林業や森って案外おもしろい」と感じてもらえたらと思う。約5年間活動し、土地の特色にちなんだオリジナルツアーを14市町村で実施している。

柴田 山形では人の連携がまだ弱いので、新しいことをやっている人たちがどんどん森林ノミクスにも入って意見を言ってもらい、多才な人材バンクのようなものができるといい。

須藤 感動があってこそ愛される製品が生まれるし、人なしにはデザインもできない。技術や歴史など、知ってもらう機会が少ないことも、製品の背景として伝えていきたい。

柴田 こだわる人たちが増えて、地元で循環の小さな市場ができるといい。

横尾 そういう分野の人たちをピックアップして価値をきちんと知ってもらい、伝える人たちが少ないと感じる。今、須藤さんがチャレンジしている。

須藤 土を掘って、宝物を探しているような感覚。

柴田 フォーラムには4,000人会員がいるのだが、そのような活動を知ってもらうのも大切。物づくりに大事なものは、良い物を長く使えること。使い捨てることが環境悪化の一因となっている。フォーラムの活動も、長く続けることで浸透していく。

須藤 ルーツである家具修復の話で言えば、修復することが長く使える方法になり得るが、そもそも生み出す時点で直せる製品を作っていくことも、ものづくりの大切な視点だと感じる。

林業の現場から見える山形の現状

齊藤 今は林業をしているが、2000年までは山形でNo.1の靴の小売業を経営していた。だが、自分の力が足りず、倒産させてしまった。その後、妻の実家が榊引町で農業をやっており、手伝ってくれと言われた。街の中心地に店舗のある流通業からで抵抗もあったが、生活を確立するために里山での暮らしを始めた。田んぼのある、旧榊引町のたらのき代は、月山の水が一番最初に入ってくる場所でもあり、農業はとても面白いが、先行きを見ると不安が大きい。妻の家では、もともと農業の他に松、杉の苗を作っていた種苗農家だった。苗は3年程で出荷しないと売り物にならないので、だんだんと縮小して行き、今はやっていないのだが、義父には杉、松の知識があった。それがきっかけで、森林組合から農家の人の手が空く時期に、杉山の植樹や草刈りを手伝ってほしいと言われた。やりだしてから林業を見てみると、若い人も入ってはいるが高齢化、機械化が進んでいた。そこで、急斜面や道路から30分歩くような現場とか、皆がやりたがらない隙間があるのではないかと思った。その話を義父にしたところ、昔は農家の仕事がひと段落すると、建設業で働く人が多かったので皆重機の免許があり、杉山の草刈りや植樹等は農家だったらできるとのことだった。そういうスキルのある人たちに働いてもらいたいと3年前に法人化した。今の時期は庄内で海岸の松枯れを駆除する仕事をしているが、そのまま松枯れが続いたら、沿岸では砂が入り、田んぼができなくなるのではないかと危惧している。それに対して、県も国ももっと予算をつけて植樹する必要があると感じる。今県内は、川上はナラ枯れがひどく、用材となる杉や桧等は、昭和40年代に入ってきた外材のために価格が急落し、今や自分の山林がどこにあるかもわからない人が増えていて、間伐もされず放置されているところが多い。適正に間伐すれば本来は流通にのる良木になるのに荒れ放題。流木の増加も、そのようなことに起因していると考えている。技術のある高齢者や山林に興味のある人を雇用して県有、国有林に植林できるようにしたい。

柴田 例えば、森林ノミクスのプロジェクトで、農業大学から林業先進国へ留学させて森林官を育成し、松枯れ等の対策もとれるような大きな仕組みづくりが必要ではないだろうか。

横尾 もし実現すれば齊藤さんのような仕事は引く手あまたになる。



齊藤 貴裕

29歳の時に、Uターン、跡継ぎとして家業に従事。

34歳の時に社長だった父が癌により他界、代表取締役社長に就任、業界内では県内最大の小売りチェーンとなるが、後に倒産。

義父と、農林業を生業とする会社「株式会社リンショウ」を2014年4月に設立。

【株式会社リンショウ】

所在地 鶴岡市たらのき代西野830



山での伐倒作業の様子



齊藤 今対策が進んでいない部分では、例えば松枯れのところに植林ではなく、防潮堤を作ってしまうとなったら、防災の面ではいいかもしれないが、本当にそこに住む人の幸せになるのか、50年先はどうかということまで考えないといけない。うちで働いてくれているような隠れた人材を、もっと活用していかなければならない。そういう人たちと仕事をできているのは楽しく、いろんなことを教えてもらっている。

柴田 林業を元気にするためにもデザインが必要。間伐した木の運び方から活用まで含めて、白紙で見てどういう風にやって行ったらいいか考えないといけない。そういう意味では山形は遅れている気がする。

須藤 遊び心と面白い発想が活きるはず。

柴田 例えば山を訪れる人(サイクリング、ドライブ、近隣住民)が、中継で寄れるような場所にカフェや軽食を食べられる拠点を作ったらいいと思う。

須藤 実家の旅館(赤湯温泉「いきかえりの宿瀧波」、リニューアル休業中)では、宿からバスで烏帽子山や近隣の山に行き、サポートしながらマウンテンバイクで山を下る体験をする、季節の星空を見る、というアクティビティを定期的で開催したいと企画している。地元の人しか行かないようなところに、世界に誇れる本当に美しい場所があることを知ってほしい。

柴田 新しい物を作るのはお金がかかるが、今あるものを活かすと素晴らしい観光資源になる。都会では生産性をあげないといけないから短時間でやらないとだめだが、地域ならではの長時間かかって作られるような、例えば麹菌のような発酵産業を特産にすればいい。

齊藤 まさに今、それをうちの地元でやっている。産直に野菜を出荷しているが、規格外の野菜を漬物に加工して売り、無駄を作らない。私、義兄、義父は山に行き、義母は漬物を作り、妻は農業をしている。

柴田 そういうことが可能だと若い人が知れば後継者が出てくるだろう。大変だと小さい頃から聞かせられたら後を継がない。若者は、金と楽な仕事に憧れているわけではない。

須藤 価値観が変わってきている。今は「やりがい」がお金以上の価値を持つ。面白い例だと、作業中に着る物などファッションの面から自分をプロデュースする農家さんがいる。オリジナルの農作業着を作り、チーム名をつけ、製品のパッケージもとても楽しげで、大切な人にプレゼントしたくなる雰囲気。「とことん好きな事をやってみよう！稼ぎはついてくる！」という想いの人とはどんどん増えているし、これからはそういう人が新しい風となり、大切な役割を果たしていく社会になると思う。

柴田 今言ったことが地域を元気にする一番の基ではないかと思う。お金ではなく人を活かす知恵が大事。地域の人も、何かできないかと創意工夫する考え方が子どものうちからあるといい。

須藤 皆で共通の意識を育てていくのもまた、とても楽しい。

柴田 当事者意識を皆持つようにする、答えを見つけるだけではなく作り出す。成果や報告書だけではなく、過程が大事で、環境を見る目もそのように考えないと。

須藤 あくまで継続的な要素を前提にする。楽しく森を守りながら、良い循環の中で利益も出す。日本の文化的に「稼ぐ=悪い」というイメージも時にはあるが、新分野においては特に、「稼いで、それを用いて更に活動し、森がより良くなっていく」というプラスの循環がすごく大事。継続して私自身が楽しんで伝える。そういうことが大切だと思っている。

柴田 例えば家を新築する際に、自由に落書きさせてよい部屋を作り、子どもが意識した頃には外して大人向けの壁に張り替えできる、またはそのまま残せる等、住んでる人と一緒に家を育てることがあっていいのかと思う。木材はそれが可能で、時間の変化と共に一緒に歩める。そのような点が課題だと思うので、須藤さんのような人がどんどんデザインしてほしい。木を使って環境を良くし、人々が豊かに暮らせる、金銭的なものではなく、精神的に豊かな生活がこれからのポイント。山形の暮らしにそんな場所を作ることが大切。



柴田 洋雄

美しい山形・最上川フォーラム会長/山形大学名誉教授
やまがた森林ノミクス推進懇話会会長



横尾 友栄

有限会社壽屋代表取締役
YBC 山形放送で16年アナウンサーとして活躍。退社後、実家である東根市の壽屋に入社し、2011年、代表取締役就任。現在壽屋香蔵で仕事をしながら、コミュニケーションに関する講座なども行う。2015年、出産。子育て真っ最中。壽屋は、食品添加物を一切使用しない漬物を製造販売している。

【壽屋香蔵】 所在地 東根市本町6-36

地域や所属を越えたキャッチボールを

須藤 大きな組織の方とお話する機会では、「参入が難しいな」と壁を感じる時がある。アイデアを持ち寄ったら互いに良いことが起きるのは想像がつくのに、どうアプローチしたら良いか悩むことがある。例えば「10年ごとに施設の椅子を取り換える」という動きがある時、外国産のパイプ椅子を都度購入・廃棄するのではなく、デザインを通して、「地元の杉材を購入して造ろう、壊れたら地元で直そう」という風に、長期で捉えれば購入・廃棄同様のランニングコストに収まり、予算に納めて木質化でき、地域が潤い続け、市民が愛着を持つ構造になっていくイメージを描くことはできる。なんとかできたらな、といつも思う。



柴田 様々な会議に出た時に、地域住民や公的に納得できる使い方に視点を置いて話し合いを進めていかないといけない。フォーラムでは、みんなからの意見を県や国に伝えられるよう、全市町村と県、河川国道事務所の方にもメンバーになっていただいている。今日のお二人のような、こうすればもっと良くなるのではないかという思いをお持ちの人たちに意見をお伺いできる、このような機会は大変貴重。マッチングすることが可能なので、フォーラムをうまく活かしてほしい。



横尾 そのような意味では齊藤さんは？

齊藤 林業をやりたい若い人はいると思うのだが、県、国の発注単価が大きすぎる。例えば5,000万の仕事をもたらしても、3人でやっていて1,000万の売り上げもないところだと、1か月毎に支払う資金繰りで行き詰まってしまうので受けられない。発注単価を見直してほしい。今のままだと大きなところは残るが新たな参入がしづらいので、起業せず下請けで働くだけになってしまう。

柴田 困っている部分を改善できるよう、一番必要な現場の声を、県の会議などで言った方がいい。小さな会社が1社だけでなく、組んで入札できるような仕組みに変えてもらえるよう、提案してはどうか。その際に、小さな会社ならではの工夫を考える、変えた方がいい理由をきちんと説明することが大事。

須藤 継続を見通したデザインを提案することは容易ではないが、とても重要だと思う。

柴田 特に古くからある産業は同じことを継続している場合が多いので、変える点もたくさんあると思う。歴史のある所はなかなか若い人の意見が通りにくいので、区域を越えてネットワークを作り、連携して提案してほしい。

横尾 山形の良さはたくさんあると思うが、次世代にどのようにつなげて行ったらいいと考えるか。

須藤 地域にとって、デザインはもっともっと課題解決に貢献できる可能性があると思っている。「この地域にしかないもの」に更にフォーカスしてもらえるような提案をしていきたい。そういう小さな成果や前例を増やしていければ、山形はもっともっと面白くなると思っている。5年前、ヤマモリプロジェクトの初回体験ツアーの広告チラシには「千歳山」の全景を大きく載せた。千歳山は日常の風景ではあるかもしれないが、一番きれいに撮影出来るポイントを何日も探り、撮影した。地元の人からとても反響があった。先に見える成果を信じつつ、自身が地元にある物の見方を広げる突破口でありたい。



柴田 様々な人が意見を出しあい交流を深めて行くことが、継続的な活動につながっていく。

須藤 若い世代も先輩方もフラットに意見を出し、互いに勉強したり、その先で事業を一緒にできるような場はとても理想的であると思う。

横尾 森林ノミクスをまず根底で支えるのが齊藤さんのような方。現場の力を今後どう展開させていく？

齊藤 今やっていることをきちんと広げて行くこと。山形県は月山のような信仰の源で、山に仕事で出るようになって自然、野生動物の宝庫であると改めて感じる。ミネラル豊富な水が川を流れ、海へと循環する中で、かわる人間の一人として、森を守る人を育てていかないといけない。仕事自体は厳しいがやりがいはとてもあり、携われる年齢も幅広い。それを若い人に伝えて行かなければ。

柴田 木材の供給サイドの一番源が齊藤さんで、需要サイドにいるのが須藤さん、お互いに意見を聞き、情報交換して、川上と川下をつなぐキャッチボールをしていただくとありがたい。人々が交流し、事業を通じてつながり、柔軟に対応していくのがフォーラム。100年先まで継続し、より良い山形につなげて行くために、ここからもどんどんつながってほしい。

2017.3.17 icho caféにて

桜が紡ぐ物語～最上川・夢の桜街道

山形県内には、日本を代表する桜の巨木や古木が数多くあります。また、春になると河川敷で人々の憩いの場になる桜並木や、山間で静かに咲く孤高の桜、桜は私たちに様々な姿を見せてくれます。フォーラムでは、県内の桜の紹介や、地域や行政の皆さんの維持管理を支援しています。

米沢市が管理する桜

米沢市は山形県の最南端に位置し、気候は米沢盆地特有の、夏は高温多湿で冬は特別豪雪地帯に指定されている厳しい自然環境です。その中で咲く桜は、市民にとって冬を耐えたご褒美のように感じられ、米沢に待望の春が訪れたことを告げるシンボルとして愛されています。

本市の桜の有名なスポットは、松が岬公園(上杉神社正面)と最上川上流河川緑地堤防兩岸(松川)が挙げられ、そのどちらも米沢市管理となっています。

松が岬公園は米沢城跡のお濠沿いに約200本のソメイヨシノが咲き乱れ、水面に映える情景がとても美しく、開花時期には夜間のライトアップも行われることから、昼夜問わず訪れる人を魅了しています。



松が岬公園

また、最上川上流河川緑地堤防兩岸には約160本のソメイヨシノが咲き、ゴールデンウィークに開催される米沢市の一大イベントである上杉まつりのハイライト、川中島合戦が行われる会場を囲むように植栽されています。開花時期が重なれば戦国絵巻と同時に、桜を楽しむこともできます。そして、残雪として西吾妻山の中腹に浮かび上がる「白馬の騎士」と最上川の清流とのコントラストが鮮やかで美しく、これ以上ない最高のお花見ポイントとなります。



最上川堤防桜と白馬の騎士(天元台)

どちらも米沢の春を彩る美しい桜のスポットですが、いずれも樹齢60年～80年の老木が多く、近年は枯枝や雪による枝折れと損傷が多く見受けられるようになりました。維持管理においては、樹木巡視の強化や枯枝の撤去を行い、その中で倒木等の危険性が高いと判断したものについては、残念ながら伐採も実施しております。

昨年、松が岬公園の桜については、美しい山形・最上川フォーラムの「最上川・夢の桜街道推進事業 桜の維持管理相談」を活用し、樹木医の山田氏より桜の保存と育成にかかわる周辺樹木の調査・ご指導をいただきました。診断の結果、生育基盤である土壌が全体的に硬くなり、樹木が上手く生育していないとのことでした。樹勢回復のため施肥を行うよう指導を受け、早速、降雪前に作業を行いました。さらに、桜の更新については各団体より苗木を寄附していただき、伐採を行った箇所へ植栽するなど、地道に活動しております。

桜の樹齢を考えれば、戦後まもなく復興のシンボルとして植栽されたものも多いことから、今後も積極的かつ計画的な樹木管理、土壌の保全などを行い、後世に美しい桜を残せるよう管理に努めて参ります。

(米沢市建設部都市整備課公園緑地担当 主任 樋口 孝)



松が岬公園での調査

オクチョウジザクラ(新庄市)

やすんば

新庄市の東部、休場から萩野・仁田山方面への道路が拓かれたことを知り、1998年4月22日に通ったところ、休場東から北に向かって間もなく道路から東へ約100m位の所にオクチョウジザクラらしき大きな株を発見しました。高さは4mにも満たないが、見事な枝張りに目を見張りました。長い萼筒や樹形などからオクチョウジザクラと判定しました。このときの花の色はかなり濃い淡紅色(写真1)でしたが、その後の観察により、年により花の色には濃淡に差異があることが分かりました。



写真1 発見時のオクチョウジザクラ

オクチョウジザクラは東北地方から滋賀県にかけての日本海側、低山地、山地に普通の小高木。多雪地に適した匍匐性の樹形で、根元から多くの樹幹を出します。花は他のサクラに比し萼筒が8～10ミリと長く、花びらが平開に近いところから丁字桜の名がつけました。母種オクチョウジザクラは岩手県以南から九州にかけての太平洋側の低山地にあり、花の色はほとんどが白で淡紅色が少なく、少し小さい花です。大森山のオクチョウジザクラは20数本の株立ちで、ソメイヨシノより早く咲き、花期が長めです。多雪の年は長期間、周辺部の下枝が積雪下になるため、中心部より開花が遅れます。一般には4月下旬から5月上旬が見頃です。2006年5月9日の計測では、枝張りの径が南北10.8m、東西10.5m、周囲36.7mもありました。日本最大級のものと思われま。植物研究グループの仲間にも見てもらいましたが、県内最大とのことでした。同年5月、NHK「山形の自然」でも紹介され、2008年3月26日、新庄市天然記念物に指定されました。現場は道路からの緩斜面、ススキ原の上部にあります。道路傍に小さな案内板がありますが、普通、桜というと立派な立木を考える人が多いと思うのですが、この木は小高木なので見落とす人もあるといいます。



平成12年5月



オクチョウジザクラから月山を望む

(文責 大類貞夫)



美しい姿を未来へ 桜を守り育てる「桜守」

平成15年度より行っている、桜の植樹、維持管理活動の支援に加え、27年度からスタートした樹木医による相談事業の一環として、地域で桜を見守り、維持管理を行う「桜守」の養成講座を行っています。

28年度は、2市町村他団体等へ、桜と周辺の既存樹木の調査、診断と、土壌改良や維持管理についてアドバイスしました。

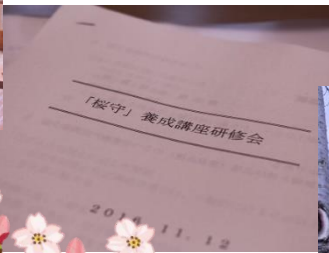
「桜守」養成講座は、28年度から認定証を発行。継続受講によるスキルアップと、県内での情報交換や次世代につながる人材の育成、ネットワークづくりを目指しています。

桜守養成講座

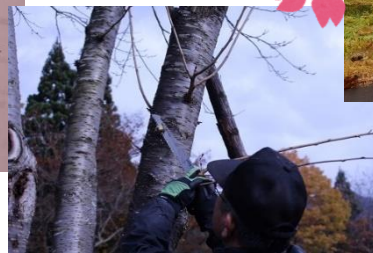


金山町他3市町村で開催

日本で最も愛されている桜の歴史や、手入れの方法等を学ぶ座学と、実際に木を見ながらの現地研修を行います。28名に基礎講座終了証が発行されました。



地域で研修会を行いたい、研修会に参加してみたい、という方はフォーラムまでお問い合わせください。



地域おこしの視点から見た紙芝居づくり 白鷹町地域おこし協力隊 石井 紀子

白鷹町には樹齢500年以上の「古典桜」と呼ばれる桜が7本あり、自然遺産としてまた観光資源として大いに活躍しています。この桜の維持管理と伝承の大切さを伝えるために古典桜を主題にした紙芝居『桜と守り人』を制作したところ、『さくら物語』に「地域おこしの視点から見た紙芝居づくり」というテーマで寄稿する機会をいただきました。筆者自身「地域おこし」とは何か試行錯誤を繰り返す身ではありますが、本紙芝居の制作で着目した、大人と中学生の交流と紙芝居の活用について記してみたいと思います。



まず、紙芝居の制作には地元の高齢者2名、若者2名、最上川フォーラム事務局1名に加え、町立白鷹中学校の学生6名を交えた計11名が携わり、物語の構成とイラストは全て中学生が手がけました。ストーリーを作る際には中学生と桜の管理者が交流することをねらい、金田聖夫さん（日本さくらの会）のインタビューを行いました。

インタビューでは、桜が自分の力で生きていけるよう弱っている部分に手を貸すことや、雑草が栄養分を横取りしないように予防するなどの維持管理の考え方を教えて頂いたことに加え、枝に登って遊んだ思い出も語られ、今では見られなくなった薬師桜と人の交流を知ることができました。中学生は紙芝居の中に金田さんの体験談を取り入れ、主人公の「ぼく」が薬師桜に話しかけて調子をうかがう場面や、「ぼく」と桜の妖精が木に登っておしゃべりする場面として表現しました。インタビューを行って中学生が桜をより身近に感じ、桜と人のつながりを感じたいと考えたのでしょう。

次に、地域おこしには、興味をそそられるような情報発信が欠かせないと考えています。今回のように、町の将来を担う中学生が紙芝居を制作したという話題性や、幅広い年代層が理解できる内容（本紙芝居の対象年齢は小学校低学年）とし、桜の紙芝居に興味を持ちやすくしています。これらの強みを活かしながら、今後何度も人前で上演した結果、よう



やく紙芝居が「地域おこし」に役立つアイテムになるのではないのでしょうか。ただし、数多く上演するためには読み手を確保する必要があり、現在この点が手薄になっています。今後は読み手の育成を考えながら、桜の開花に合わせて紙芝居を上演できるよう準備を整えていきたいです。



美しい山形は私たちの手で

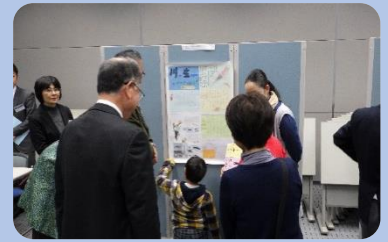
私たちの身近にある川や水辺の環境を知り、一人一人がアクションを起こすために、フォーラムでは県民の皆様と環境に関する活動を行っています。小さな一歩が、明日の美しい山形を作ります。



身近な川や水辺の健康診断



スポGOMI大会



もがみがわ水環境発表会



美しいやまがた
クリーンアップ・キャンペーン



開催情報はフォーラムホームページなどでお知らせしています。

東日本大震災復興支援プロジェクト～東北・夢の桜街道～

震災から丸6年を迎えるにあたって

東北・夢の桜街道推進協議会 会長 細野助博

2011年3月11日午後、東日本を大地震が襲い、津波が発生しました。そして三陸の海沿いのまちが濁流に飲み込まれ、福島原子力発電所が津波の影響でメルトダウンを起こしました。自然災害の爪痕はまだ完全には消えていません。いや現在でも私たち日本人の心を苛み、生活不安を起し、誇りを傷つけています。いつまでも消えない「風評」被害は避難者を追いかけ、陰湿ないじめの原因にもなっています。しかし日本中を不安に陥れた震災や原発事故から、早く自由になりたいと多くの方は無関係な「風化」させようともがきます。オホーツク海気団より吹く冷たく湿った北東風「やませ」のように、冷たく湿った二つの風です。6年たっても、まだまだ吹き止みません。

でも皆さんご存知のように、日本では美しい花々とともに季節が移り変わってゆきます。春の桜、夏の紫陽花、秋の秋桜、冬に山茶花。そしてその花々を取り巻く新緑、深緑、紅葉をつけた樹木と川のせせらぎ、そして落ち葉と雪。みなそれぞれの季節に彩りを添えます。そうする季節が廻り巡って行く先で、その二つの冷たい風もやがてどこかに消え去ってゆくに違いありません。つらい時の流れをなるべく早く終わらせ、希望の明日をなるべく早く迎える準備を東北の人々とともに整えたい。これが東日本大震災の起こった2ヵ月後に美しい多摩川フォーラムと美しい山形・最上川フォーラムの間で整えられた仕組みを母体に、発展的に結成された「東北・夢の桜街道推進協議会」の思いであり、目標なのです。

この未曾有の大震災は直接被害を受けた地域だけでなく、東北全体に被害をもたらしたといっても過言ではありません。人口減少はむしろ青森、秋田そして山形の地域でも加速化しているのですから。でも、この人口減のスパイラルを一刻も早く断ち切らなければ、手遅れになります。東北の四季のすばらしさ、山海の自然の恵みと豊富な温泉、温かな人情と伝統芸能が時代を超えて温存される風土。これらが地域の復興・再生にうまく活かされているとは言えません。何故でしょうか。一つはこれらすばらしい地域資源の数々が、東北に生活する皆さんの「日常性に埋没」し、その潜在価値に気づき、掘り起こすことのきっかけを自力で見出せずにいるからです。

そこで、「東北・夢の桜街道」の岡目八目に期待してみてください。協議会では108か所の「桜の札所」を指定し、ツアールートに組み込み、スマホアプリで情報提供することで、気づきのきっかけづくりのお手伝いをしています。また、東北のすばらしい天然資源と風土が醸し出すテロワールに育まれた色々な土地の美酒が競い合い創り出すネットワークが「東北酒蔵街道」を形成するお手伝いもしています。また、桜をテーマにした瀬戸内寂聴の妖艶な世界で各地の舞台を飾る、語り部・平野啓子氏（美しい多摩川フォーラム副会長）の「桜の語り会」も見逃せません。そして特筆すべきは、全国264信用金庫のネットワークがこの協議会の支援に回ってくださっていることです。東北地域の復興、再生はもちろん地域の人たちが主役です。そして私たち協議会はわき役として皆さんを支えたいのです。皆さんは決して孤独の淵に佇んでいるわけではありません。希望の明日に向かってこれから一歩も二歩も踏み出してください。



地域の特色を活かす～地域部会～

置賜地域部会

6月24日、米沢市の最上川河川敷 3,200㎡に、保育園児、ボランティアなど 100人でヒマワリを蒔きました。咲き始めた頃、台風に見舞われましたが、めげずに咲いた花が花沢大橋を渡る市民の目を楽しませてくれました。

11月8日には白鷹町文化交流センターあゆむで、「最上川水運を語る」と題した講演会が50名の参加者で開かれました。本間美術館顧問高瀬靖さんには、和歌や舟運を題材に最上川の歴史を語っていただき、酒田市の本間光枝さんからは女性たちの切ない願いを表した紙芝居「傘福」(平成27年度庄内地域部会制作)を演じてもらいました。“皆で歌いましょう”のコーナーもあり、同じく酒田からお越しの佐藤喜和子さんの指導による歌唱で盛り上がりました。東北芸術工科大学渡部泰山教授に今後の展望を語っていただいたこの企画は、2016年3月20日に開かれた「舟運文化シンポジウム」の交流会で、「最上川流域の交流を盛んにし、県民が主体となり、最上川の利活用を図ろう」という提案から生まれたもので、今後も活動を広げて行こうと語り合いました。
(本木 勝利)



最上地域部会

2007年に発行した「もがみの湧水」マップをもとにその後の湧水の現状を把握し、湧水を守る方策を検討するために実施して3年目になります。今年度は最上町の湧水7カ所を調査しました。

- 1 日時 9月6日(火)午前9時～午後3時
- 2 参加者 21名
- 3 調査地点 ①長寿の泉(細野原)→②切立泉の水(満沢)→③薬師の水(満沢)→④山刀伐峠の麓の泉→⑤白川橋下の湧水(大堀白川橋)→⑥さくら清水(瀬見)→⑦おすず(瀬見温泉街)
- 4 調査の現状 ・8月の集中豪雨の影響で麓の泉は水脈の変化が湧水がなくなっていました。また、おすずは土砂崩れで埋没していました。・薬師の水(満沢)は、「里の名水・山形百選」に応募し、専門家の検査の結果では、「おいしい水の要件」と「おいしい水の指標」の合計評価点が28点と県内13の応募湧水で最高点であり、一般細菌、大腸菌とも検出されず、平成28年度「里の名水・山形百選」に選出されました。

3年間の調査で、標柱が紛失したり、破損したりした箇所がありましたので、「最上川フォーラム」のプレートを作成していただき、標柱用の木材も入手できましたので、次年度早々に設置する予定です。
(部会長 齋藤 正昭)

村山地域部会

村山地域部会では、7月30日に「スポGOMIで街歩き山形大会」を主催者の一員に加わり実施いたしました。山形県郷土館文翔館をスタートに、途中、文化財や環境(ごみなど)に関するクイズを解きながら、ゴールの山形まなび館を目指して街なかのごみ拾いを行いました。この大会の詳しい様子は、8月14日の県政広報番組「やまがたサンデー5」で放映され、ごみ拾い活動及び海岸漂着ごみ問題について広く啓発できたのではないかと思います。

村山地域部会では初めてですが、桜の維持管理活動への協力として、「羽州かみのやま桜の会」の総会終了後、樹木医の山田寛爾氏により「桜を守り育てる基礎知識」と題して講演をしていただきました。

また、最上川の紙芝居作りをされている置賜地域部会の本木勝利さんから村山市の難所「隼」を題材としたものを作成したいとお話があり、本木さんと連携させていただきながらすすめる予定であります。

その他、この一年、地域の特色を活かした事業や行事を考えてきましたが、企画が立てられず実施できませんでした。皆様からご提案、ご教示などいただければ幸いです。
(部会長 佐竹 良廣)



庄内地域部会

振り返ってみると、地域部会の活動は、2006年から始まりました。今年も、これまで主活動として行って来た水辺の健康診断と桜の維持管理のことについて活動しました。鶴岡と酒田の2小学校で、水質調査・水生生物調査・川の学習講話を、3～4名でサポートしました。熱心に嬉々として活動している姿を見ると嬉しく思うとともに、環境学習の大切さを痛感します。

桜関係では、昨年樹木医さんに健康診断してもらった桜の剪定などの手入れをしました。また、庄内地方の桜の群生地調査をし、基礎資料の整理をしました。このことで、最上川堤防のさくら回廊事業による桜並木を見回りましたが、生育状態は必ずしもよくありません。狩川地区は、色々な品種が植えてありますが、清川出風の強風のせいもある生育の劣る木が目につき、手入れを要する状態でもあります。JR砂越鉄橋から左岸下流約4kmに約400本の桜がありますが、よく育っているのは110本程です。右岸の遊歩部付近の並木は惨憺たる状態です。

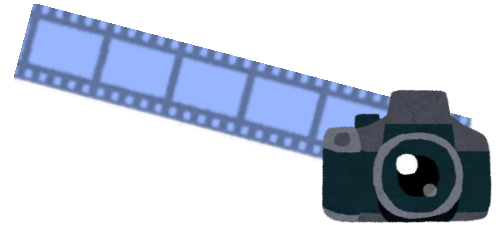
最上川堤防は、冬場の強風など厳しい環境でもあり、うまく育たない原因をよく調べ、その後の植樹に経験を生かす方策が必要です。植えた後のケアを大切にしたいものです。
(部会長 原田 清廣)

第3回水辺の四季写真コンテスト 身近な水辺と人々のいとなみ



受賞作品は、ホームページでも公開中
 <http://www.mogamigawa.gr.jp/>

写真の貸し出しも行っています(無料)
 お問い合わせは、事務局まで



【最優秀賞】「鯉の見学会」

富樫 馨 <金山町大堰>

撮影者コメント：近くの園児達が来て鯉の放流を行いました。終わった後はゆっくり見学していました。



【優秀賞】「豊穡の水」 大泉 忠夫
 <遊佐町吹浦>



【優秀賞】「鮭の築漁」 戸塚 喜八
 <鮭川村>



【優秀賞】「静寂の時」 佐々木 吉治
 <酒田市>



【奨励賞】「水上でのヨガ」 阿部 紀秋
 <寒河江市 グリバーさがえ>



【奨励賞】「水辺の春」 植松 晃
 <山形市 霞城公園>



【奨励賞】「河川暮色」 ごと繁四郎
 <酒田市最上川河川公園>

美しい山形・
最上川フォーラム

会員募集中 みなさんの手で、美しい元気な山形に

入会方法

- ①ホームページ内「入会案内」より申込み用紙をダウンロードし、必要事項を記入して投函してください。(切手は不要です)
- ②ホームページを使つての申込みが難しい場合は、事務局までお問合せください。
ホームページアドレス <http://www.mogamigawa.gr.jp/>

年会費

個人会員様 1,000 円
 法人・団体会員様 3,000 円

問合せ 連絡先

美しい山形・最上川フォーラム事務局
 〒990-0041 山形市緑町 1-9-30 緑町会館
 TEL 023-666-3737 FAX 023-666-3738
 E-mail info@mogamigawa.gr.jp

私たちは、美しい山形・最上川フォーラムを応援しています。

協賛金融機関	大場印刷 岡崎医療	三和フードサービス Jes設計	東北サイエンス 東北食糧	ヤマガタ共同 山形銀行
山形銀行	荻野建設	JTB東北山形支店	東北電化工業	山形銀行県庁支店
荘内銀行	奥山経営センター	シェルター	東洋精機製作所	山形経済同友会
きらやか銀行	小国ガスエネルギー	シー・アイ・シー	富樫管工建設	山形県JAビジネス
山形信用金庫	海鋒資材センター	四季の住まい	トブコン山形	山形県医師会
米沢信用金庫	花開瞭鈴木医院	慈心会井出眼科病院	ドモス	山形県印刷工業組合
鶴岡信用金庫	カスタムロード	シベール	長井商工会議所	山形県環境整備事業協同組合
新庄信用金庫	和美屋	商工組合中央金庫山形支店	長岡造園	山形県環境保全協議会
北郡信用組合	葛麓運輸建設	庄司自動車工業	ナカムラ	山形県観光物産協会
山形中央信用組合	カトウ衛生企業	荘内銀行	中山町商工会	山形県企業振興公社
山形第一信用組合	神室工業	庄内環境保全協同組合	那須建設	山形県計量協会環境計量証明部会
JAバンク山形県	河嶋や金物店	庄内測量設計舎	ナチ東北精工	山形県建設業協会
県内35全市町村	川田酒店	菖蒲園	名取精機	山形県砂防協会
	環境管理センター	白鷹町観光開発	並木工務店	山形県商工会議所連合会
米沢市 長井市 南陽市 高島町	環境再生さくらぎの会	城西電工	南風学園あおぞら幼稚園	山形県商工会女性部連合会
川西町 小国町 白鷹町 飯豊町	環境U-ネットやまがた	新庄・最上環境会議	西川企業	山形県商工会連合会
山形市 寒河江市 上山市 村山市	管製作所	新庄砕石工業所	西屋旅館	山形県浄化槽工業協会
天童市 東根市 尾花沢市 山辺町	菅藤学園	新庄商工会議所	日興製作所	山形県情報企画課親交会
中山町 河北町 西川町 朝日町	カンベ	新庄信用金庫	ニッコウ電機商会	山形県信用保証協会
大江町 大石田町	杵屋本店	真和商会	日東ベスト	山形県森林組合連合会
新庄市 金山町 最上町 舟形町	キムラ建築	翠紅園	日本環境科学	山形県水質保全協会
真室川町 大蔵村 鮭川村 戸沢村	協同組合山形流通団地	水陸会	日本地下水開発	山形県水質保全協会青年部
鶴岡市 酒田市 三川町	協立計装工業	菅野測量設計	農林中央金庫山形支店	山形県測量設計業協会
庄内町 遊佐町	きらやか銀行	菅原工務所	野村證券山形支店	山形県治水協会
団体、法人、行政会員	くまがい	スズキ	野村佛壇店	山形県土地改良事業団体連合会
	グリーンクアパーク	スズキ印刷	ハイスタッフ	山形県内水面漁業協同組合連合会
アーキネット	黒滝会	鈴木製麺所	ハイテックシステム	山形県農業機械工業協同組合
秋葉商店	黒滝展望公園・下山口ロマン街道の会	鈴木測量事務所	白蝶ビル	山形県農業協同組合中央会
秋保建設	ケア・ワールド	瀬野製作所	蜂谷建設	山形県みどり推進機構
朝日測量設計事務所	ゲンジ堂とカジカ蛙愛護会	セブズエレクトロ	葉山建設	山形県理化学分析センター
アサヒビール山形支社	公益のふるさと創り鶴岡	仙英学園ゆりかご幼稚園	東沢ホテルの会	山形故紙センター
アドバンビル	心のふるさと新井田川の会	千成興業	東日本高速道路山形工事事務所	山形酸素
安孫子会計ビジネスサービス	コシカ	千門町堂の会	フィデアカード	山形商工会議所
安孫子工務店	壽屋	そば処吉亭	検町アダプトの会	山形信用金庫
有馬館	コバヤシ機工	第一タクシー	福井建設	山形タクシー
ALSOK山形	小松建設	高島電機	富士鉱油	山形日産自動車
イガラシ機械工業	小松ゴム商会	高梨製作所	藤庄印刷	山形ひかりのくに社
池内熊治商店	小松写真印刷	高橋畜産産肉	ブッシュ建設	山形南生活総合センター
池田内科医院	コマツ山形	高実工務店	ブナの森	山形冷暖
石川建設産業	近藤工業	高島町商工会	フューメック	山形ロータリークラブ
いそのポデー	今野紙工	竹田組	ブライダル大内	山形ワシントンホテル
稲毛工務店	蔵王警備保障	田村技研工業	プロスパーマルイ	山喜建設
井上精工	ザオー測量設計	田村測量設計事務所	ボランティア・カムロ	山岸板金工業所
イベントプロデュースガッツ	寒河江印刷	立谷川工業団地協同組合	本多アルミ	山口の里づくり
羽州かみのやま桜の会	寒河江川土地改良区	丹野	本間利雄設計事務所	山崎商事
うろこや総本店	さがえ西村山農業協同組合	丹野こんにやく	最上川美術館	ヤマザワ
エイコウ	酒田商工会議所	千歳学童保育クラブ	升川建設	ユーキセツサク
エヌエス環境山形営業所	サカタ理化学	中央清掃	松岡	遊学の森案内人会
NTT東日本山形支店	櫻井建設	㈱中央タクシー	丸市運送	米沢商工会議所女性会
遠藤会計事務所	櫻田ボーリング	中央タクシー(株)	丸江製作所	ユーシン不動産
遠藤産業	佐藤建設	チュチュ	マルコウ環境	ユニカ技研
遠藤土建工業	佐藤税務会計事務所	つたや	丸十大屋	鷹山会
おいたまサロン	佐藤松兵衛商店	土谷	丸好興建	米沢酒類販売
大江町商工会	さのや	鶴岡商工会議所	水澤化学工業水沢工場	米沢商工会議所
大風印刷	三共開発	鶴岡信用金庫	南山形愛育会 南山形すくすく保育園	米沢信用金庫
大久保地域元気な街づくり推進協議会	三光社	鶴岡舟番所	ミヤマ金属	理研分析センター
太田建設	三郷塚土地改良区	ディティール・ギャラリー	宮村産業開発	ローマン
オデ・オ・ビジネス7ル・シ77M山形	三幸ソーイング	テトラス	ムラヤマ	ワイエム技研
大沼	三和技術コンサルタント	テレサインターナショナル	メイク美装	渡辺電気工事
	切り取り線	出羽屋	メカニック	渡辺螺子
		電制	メディカルプラザ山口医院	山形県
		天童環境	最上川土地改良区	国土交通省山形河川国道事務所
		天童商工会議所	最上峡芭蕉ライン観光	国土交通省酒田河川国道事務所
		天童ライオンズクラブ	最上振興	国土交通省新庄河川事務所
		でん六	モンテディオ山形	国土交通省最上川ダム統合管理事務所
		東邦砕石ホテルサンチェリー	門馬医院	林野庁東北森林管理局山形森林管理署
		東北医療機器	八沢川せせらぎ公園愛護会	庄内森林管理署
		東北環境開発	矢萩土建	山形森林管理署最上支署
		東北地域づくり協会山形支所	山形ガス	平成28年12月現在
		東北公益科大学	山形ガス管工	※敬称略、順不同

美しい山形・最上川フォーラム 会員証

会員 No. _____

Name. _____

美しい山形・最上川フォーラムは、最上川をシンボルに美しい元気な山形づくり運動を進めています

2017 会員 No.は案内封筒に記載しております

美しい山形・最上川フォーラムはやまがた社会貢献基金に団体登録しております。ご支援を検討いただける際はご相談下さい。

美しい山形・ 最上川フォーラム

発行元 美しい山形・最上川フォーラム
〒990-0041
山形市緑町 1-9-30 緑町会館
<http://www.mogamigawa.gr.jp/>